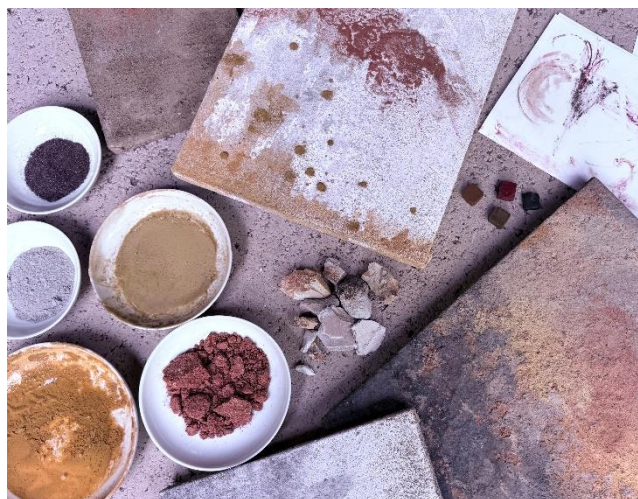


2026 年 7 月 22 日（水）発表
愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
担当 芸術情報・広報課（三宅・磯谷）
電話 0561-76-2851（ダイヤルイン）
E-mail geijo@mail.aichi-fam-u.ac.jp

愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所 2026 秋期リカレント講座 「原始の絵画体験—土を絵具にして描く—」開催

愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所では、古典絵画技法や文化財保存について専門家から学びリカレント講座を開催しています。2026 年は「土から始まる美術表現」をテーマに掲げ、人類最古の描画素材である土を軸に講座を開催してきました。

今期からは実習編として、土という素材の特性を学びながら、絵画表現の可能性を探ります。本講座について、是非貴社にお取り上げいただきますとともに、ご取材いただきますようお願い申し上げます。



【タイトル】 2026 年秋期リカレント定期講座「原始の絵画表現—土を絵具にして描く—」

【日 程】 2026 年 10/26（月）・11/9（月）・11/30（月）13:30～15:30

【講 師】 中神敬子（愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員）

【会 場】 愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所（愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-114）

【受講料】 15,000 円（全 3 回分）

【対 象】 一般 20 名（要申込・先着順）

【申込方法】 Web 申込（募集期間 9/14～9/30）

【問 合 せ】 愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課 TEL. 0561-76-2851

【主催/協力】 愛知県立芸術大学/一般社団法人 VAUA

URL: <https://www.aichi-fam-u.ac.jp>

2026年度秋期リカレント定期講座

「土から始まる美術表現」実習 原始の絵画体験 ー土を絵具にして描くー

土は、人類最古の描画素材のひとつであり、顔料の起源ともいえる存在です。洞窟壁画に見られるように、

自然由来の土壌や鉱物は、古くから色彩表現を支えてきました。

ラスコーやアルタミラの洞窟壁画では、赤土や黄土、木炭などが用いられ、岩肌の凹凸を活かしながら、

動物たちの姿が描かれました。そこには、土そのものが持つ色彩や質感、

そして自然素材ならではの揺らぎが、太古の人々の表現と深く結びついています。

また、現代においても土による描画は、既製顔料にはない不均質さや

偶然性を含み、新たな造形の可能性をひらいていきます。

本講座では、実践を通して土という素材の特性を学びながら、表現の可能性を探る機会となることを目指します。

10/26 日 素地の準備 土を絵具にする

11/9 日 荒土での中塗り 土のクレヨン作り

11/30 日 土絵具での仕上げ塗り 土のクレヨンで描く

各回13:30~15:30 持ち物:お手拭き、筆記具、汚れてもよい服装あるいはエプロン
土を用いた4号サイズの壁画的作品1点と、蜜蝋を使ったクレパスで紙に描く作品1点を制作します

講 師 中神敬子 [愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所研究員]

場 所 愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所

定 員 20名 [要事前申込]

受講料 15,000円 [全3回]

申込期間 9/14午前9時~9/30午後5時 (先着順)

申し込みはこちら



- ・実技講座は制作工程管理のため、3回全てを受講できる方に限定して募集します。本学学生は対象外。
- ・お支払いただいた受講料は参加有無にかかわらず返金や払い戻しはできません。予め予定をよくご確認の上、お申し込みください。
- ・申込受付後、お支払方法をご案内します。・受講料の入金確認を以て申込完了とします。・制作品は後日配送になります。

お問合せ

愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課

☎0561-76-2851

(受付時間 平日 9:00~17:30)

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114

メール: geijo@mail.aichi-fam-u.ac.jp

アクセス

◆名古屋方面から

市営地下鉄東山線終点「藤が丘」駅下車、
東部丘陵線(リニモ)に乗り換え「芸大通」駅下車、
徒歩約10分

◆豊田・瀬戸方面から

愛知環状鉄道「八草」駅下車、
東部丘陵線(リニモ)に乗り換え「芸大通」駅下車、
徒歩約10分

